

強勢台木による極早生温州ミカン 「ゆら早生」の早期安定生産技術

(研究期間 平成22年度～25年度)

農業技術センター農産園芸部 宗田健二

【背景・目的】

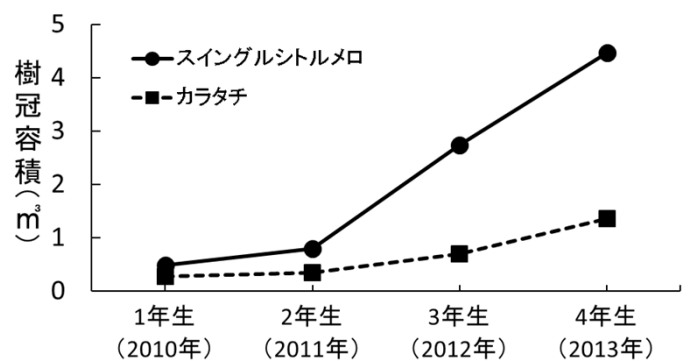
我が国のカンキツ栽培では、従来の品種との相性が良いことなどから、苗木のほとんどで「カラタチ」が台木として使われているが、品種によって特性を生かせないものがある。

淡路地域では、早期出荷による有利販売を目的に「ゆら早生」の導入が進んでいるが、カラタチ台では生育が緩慢で、結実開始後には樹が弱くなり、安定生産による収益確保が課題となっている。

そこで、淡路地域において、樹勢を強くする「シングルシトルメロ」を台木として用い、早期に樹を大きくして、高品質な果実を安定的に生産できるか検討した。

【成果1】

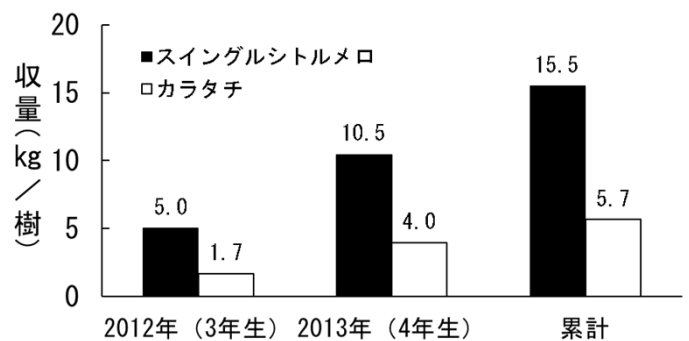
「シングルシトルメロ」の利用で、初期生育が良くなり、樹が早く大きくなった。このことから、幼木期の生育改善に有効であることが分かった(第1図)。



第1図 台木の違いと樹の大きさの推移

【成果2】

「シングルシトルメロ」の利用で生育初期の収量が多くなり、早期安定生産が可能になることが分かった(第2図)。



第2図 台木の違いと収量



シングルシトルメロ台



カラタチ台

【成果3】

「シングルシトルメロ」台の利用で、果実に含まれるクエン酸(酸味の素)の減少が「カラタチ」台に比べ進んでいたことから、収穫時期が早まることが分かった(表)。

表 台木の違いが果実のクエン酸含量に及ぼす影響 (2012-2013年)

台木	クエン酸含量 (%)	
	2012年	2013年
シングルシトルメロ	0.64	0.63
カラタチ	0.75	0.75

【今後の展開】

「ゆら早生」導入による収益性向上には、淡路地域で優位性を発揮するシングルシトルメロ台の普及が必要である。そのため次のことが必要と考えられる。①生産者へ従来のカラタチ台に代わるシングルシトルメロ台の利用啓発。②台木の生産供給体制の整備。③植え換え時に、改植事業の活用によるシングルシトルメロ台の導入推進。